

(1) 安全安心対策について

意見 (要約)
感染対策を実施している事業者が貼りだせるようなステッカー・標示等を迅速に配布する。
県から説明のあった安心・安全の取組は、秋保・作並でも先行的に行おうと思っ ていた取組であるので、ぜひ早急にチェック表の作成等に取り組んでほしい。
安全対策は全国どこでもやっている。それをいかに安心につなげるか、マインドの 部分が大事。
安全安心対策コストへの支援。安全安心対策(宮城県としての具体的な取組 み)の情報発信が必要。
感染症対策をした上で営業している旨をSNSや宮城・山形・福島3県の顧客へのほ がきによる案内でPRし、ようやくお客様が来てくれつつある。
安全安心対策を実施したものの、情報発信ができていない。
感染防止対策の徹底に向けた設備投資への補助など、受入態勢の整備が必要。
宮城は安全・安心だという取組を、デジタル等を活用し早急に対応すべき。
各施設等の新型コロナの安全対策について、圏域としてもっとPRしてはどうか。 「新たなもてなし」について、みんなで考え、作っていくという取組みが必要。
感染症が発生してしまった場合にどのように対応していくのか具体化して示し てほしい。気仙沼・本吉地域の医療体制が脆弱なのは否めない事実なので、地 域の受け入れる方への対策も考えてほしい。
感染対策の基準や、イベント開催の判断指標を示す。
県民に安心感を与える対策をきちんと実施しているという情報を発信して欲しい。
今後コロナが再び発生した際にどのように対応するか検討をすべき。
安全・安心がキーワードだとすると、住んでいる人がそう思わなければならない。
空港としても安心の取組の設備投資や空港で発生した感染者の受入体制などの準備 が必要。
観光バス三密を避けるため増便の必要性があり、補助制度など手厚い支援が必要。
防災と観光の視点、観光客受け入れのための安心・安全の可視化が必要。

課題・論点
安心安全対策を迅速に行う必要がある
安心・安全の可視化が必要
安全安心対策の情報発信が必要
安全安心対策の徹底に向けた設備投資の補助が必要
安全安心をデジタルを活用して対応していくべき
安全対策についてPRし、新たなもてなしの取組が必要
感染症発生時の対応策が必要
感染対策の基準やイベント開催の判断指標が必要
再流行に備えた準備が必要
住んでいる人が安全安心だと思わなければならない

取組の視点
安全安心対策・見える化
【各圏域からのアイデア例】
(全体、仙南、仙台、大崎、栗原、登米、石巻、気仙沼・本吉) ○安全安心対策の実施・可視化・情報発信等
(全体) ○デジタルを活用した安全安心対策 ○三密回避のためのバス増便への補助
(仙南、仙台) ○安全安心対策コスト・設備投資への支援
(仙台) ○感染対策基準・イベント開催判断指標の策定
(石巻) ○安全安心の可視化・圏域全体の情報発信
(気仙沼・本吉) ○コロナ発生時の対応・地域の受入対策

(2) 域内流動や地域資源の磨き上げについて

意見 (要約)
クラウドファンディング2割増しではインパクトに欠ける。企業側に負担を求めて もいいので、もっとインパクトのある設計してほしい。
朝方観光にシフトするべき。(景観、朝風呂、朝食、ランチ)
地域から見たときに、仙台を重要なマーケットとして捉えるべき。
松島と比較し、石巻の強みは海産物等の「食(食べ物)」ではないか。
仙台七夕祭りなど、多くのイベントが中止になったが、再開あるいは別な形で実施 できるよう支援を検討してほしい。
栗原地域は、もともと宿泊客が少ないので、観光コンテンツの充実を先に考えた方 が、効果大きいのではと考えている。
圏域の観光資源をどのように発信していくかが課題。
観光資源の原石はたくさんあるが、磨き上げが必要。
東松島市の他にはない特徴としてSDGs未来都市、「スポーツ健康都市宣言」や防 災・観光教育施設などがあり、関係者が連携して取り組むことが必要。
小さな観光が豊富にあることが大事で、全員がプレーヤーとして一体となって取り 組むことが必要。
教育旅行の関東から東北への方面変更など問合せが増えてきており、バス利用 の際の三密回避のため台数増による経費増が見込まれることから、インパクト のある助成を願いたい。
近隣地域との連携により、観光客を周遊できるようにしたい。また、地元の人 に地元の魅力を知ってもらえるような取組みが必要である。
CF事業は、複雑で利用しづらく事業者の規模や情報発信力により差が出る可能性 がある。割引券の発行等分かりやすい支援策にすべきである。
圏域から出られないということであれば、圏域内の移動が重視されてよいのでは 。30分から1時間の間で行き来できるような圏域内で完結する観光も大事と思う。
コロナからの回復のため、まずは県内・国内の需要喚起から始めるべき。これまで 海外に行っていた人が、今後は国内に目を向ける可能性がある。
県南と県北で交流するなど、県内全域に広げていくことが重要。
仙台市は、転入者が毎年それぞれ4万人を超えている。転入者は新しい見込 み客となる。転出した方は転出先で宮城県、東北を発信していただければ有効 なピーアールとなる。
広域的に食材などをテーマに同時イベント開催などで観光客を呼んでほしい。
公共施設(博物館・美術館等)や公共交通機関への補助や無料化を実施し、街 歩きを促す。
今後の観光戦略としては、着地施策を中心に構成するべき。
自転車の移動も多いことから、サイクルツーリズムを呼び込むべき。
無担保融資等はあるが、あくまで延命措置なので、バス事業に特化した支援が 必要。
震災や今回のコロナの影響により借入金は増大しており、影響が長引いた場 合、半年から1年後に事業が成り立っているのか心配。
県内や東北のお客様に対し、宮城の魅力を県や地元の間がどんどんSNS等で発 信するなどの話題作りが必要。
地元で田植え体験等、地元の方々が楽しめるような、地元の方々のモチベーショ ンを上げていく取組みを続けていくと、他の地域や外向けの良いPRになるのでは。
地元の人が地域の魅力を知り、その魅力に対するシビックプライドを持つこと で、一人一人が「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施す る。

課題・論点
地域の強みを活かした取組が必要(「食」など)
イベント再開等の支援が必要
観光資源の情報発信が必要
観光資源の磨き上げが必要
観光資源を活かし地域が一体となって取り組むことが必要
県内・国内の需要喚起から始めるべき
県内の交流人口の拡大施策が必要
広域的な同時イベント開催など集客力アップの取組が必要
今後は着地施策を中心にすべき
サイクルツーリズムの取組が必要
事業継続のための取組が必要
地元の人が地域の魅力を知り、発信することが重要
情報を集約する場が必要
体験型観光等が必要
地域の周遊型観光コースをターゲットに応じて商品化すべき
東北地域内を対象とした支援が必要
二次交通への対応が必要
マイクロツーリズムのチャンス
体験型コンテンツの整備が必要
地域の魅力アップや職員のおもてなし教育が重要
旅行しやすい環境や雰囲気づくりが必要
観光機運の醸成

取組の視点
県内流動促進・旅行者との つながり強化
【各圏域のアイデア例】
(全体) ○中止イベントの再開等への支援
(仙南) ○朝方観光へのシフト(景観、朝風呂、朝食、ランチ) ○手段としてのサイクルツーリズムの取組 ○観光ポータルサイトの作成による情報発信 ○蔵王の自然を活かした体験「コト」観光
(仙南、気仙沼・本吉) ○県南と県北の観光交流・ツアー造成
(仙台) ○博物館・美術館等の公共施設や公共交通の無料化 ○地元住民によるSNS発信の取組 ○地元の人が観光マンとなるような機運醸成の取組
(大崎) ○三密回避のためのバス利用への大幅な助成 ○地元の人が地元の魅力を知ってもらう取組 ○東北六県旅行への支援の取組 ○観光地への誘客の取組への支援(休前日の花火等) ○観光のCM作成・放送
(栗原) ○栗原地域の観光コンテンツの開発 ○圏域内で完結する観光の充実 ○田植え体験等地元のモチベーションが上がる取組 ○栗原のお酒を楽しむ知識を得るツアー造成
(登米) ○クラウドファンディングの割り増し ○観光の地域活動・まちづくりリーダーの養成 ○登米の風土マラソンと連動した農業体験や観光地への誘導・宿泊につながる取組
(石巻) ○石巻の食(海産物)を活かした観光の取組 ○東松島市の「SDGs未来都市」「スポーツ健康都市宣言」、防災観光教育施設を活かした観光の取組 ○「食」をテーマとした広域的なイベント開催 ○地域の観光スポットのコース化 ○二次交通を利用してもらえるコースづくり ○地域の特性を活かした体験コンテンツ(ワカメ収穫等) ○旅行しやすい雰囲気作りや機運醸成の取組(休暇の分散化等) ○複数の航路の乗継の仕組の整備

仙台市からの年間4万人前後の転出者一人一人が観光マンとなり、外から宮城県に呼び込んでもらうような機運を醸成する啓発活動の取組が必要ではないか。
観光に関するポータルサイトを作成し、一体となった情報発信が必要。
新型コロナ以前のように他県からや、インバウンド等による誘客はリスクが高いため、「県内の人が県内で楽しむ」ということに力を入れたらよいと思う。
体験・「コト」を売る取組が重要。近くの客が蔵王の自然環境の魅力を再認識してもらえるよう、発信していきたい。
販売・体験などの観光資源を掘り起こして、一体感のある県にするべき。
個々で観光や、地域活動、まちづくり活動する人が沢山いるが、個人単位での実現は難しいため、意見やアイデアを集約して、まとめて良いものを作り上げてくれるリーダーが必要ではないか。
栗原のお酒を栗駒山でキャンプをしながら楽しむ、宿泊を伴うようなイベントや、少人数で、栗原のお酒を飲んで一つ知識もつけて帰ってもらうようなツアーなども提案できれば良い。
地域の観光スポットなどをつなげ、ターゲットごとにコースを設け、その中で交通や宿泊施設を利用してもらおうと良い。
東北六県内の旅行等を対象にした支援策があると良い。
登米市は二次交通の問題を抱えており、客に乗ってもらえるルートづくりが必要。
風土マラソン等のイベントに外国人も含め県外客の参加が相当数あるものの、イベント参加のみで終わってしまう。登米市産の食、飲が楽しめる、農業体験もできる観光コンテンツ等を造成し、参加客等の市内観光地等への二次誘導と宿泊者の増加につなげる取組が必要。
ピンチをチャンスに。今がマイクロツーリズムのチャンス。
観光需要の拡大のため、観光のCMを作成・放送していただきたい。
鳴子温泉で休前日に花火を上げる場合、誘客支援として県で支援できないか。
今までは、農業だけ、観光だけ、イベントだけでやっていたのを横に線をつないで一緒に自分事として、観光振興に取り組むことが必要。
体験型コンテンツ（ワカメの収穫や島巡り等）の整備が必要。
感染拡大防止とトレードオフが大事だが、来てくださと言えない中で、どのようにして誘客するか。地域の底力として魅力アップや職員のおもてなし教育が重要と考える。
いざ観光に行こうとなったときに、心理的な壁（世間体）が気になる。地域も含めて旅行に行ってもいいという雰囲気や旅行しやすい環境づくりが必要。
島を観光資源と考えると、航路を乗り継ぎ移動できる仕組みはどうか。
コロナ禍において、旅行需要を高めていくには、受入側の地域とも連携した旅行や外出をしようといった観光機運の醸成が大事である。
大規模な旅館では、県内の宿泊客だけでは採算ラインを確保できないことから、関東方面からの宿泊客の誘客を進めていきたい。

(3) 新しい価値観・新しい観光について

意見（要約）
「適疎」など印象的なフレーズを前面に出すのがよい。（快疎・安疎・楽疎など）
東松島のオルレについては、4月と5月でも一定程度の需要はあった。野蒜、宮戸八景等のオルレ中心に、三密を回避したコンテンツが好まれるのではないか。
いざ観光に行こうとなったときに、心理的な壁（世間体）が気になる。地域も含めて旅行に行ってもいいという雰囲気や旅行しやすい環境づくりが必要。
適疎の表現を工夫し、観光客へ訴求していく。松島などの密から疎へなど訴え足を延ばしてもらおう。
中長期的視点に立って、5G環境整備への支援・補助を行う。
今後の取組としては、MaaSを活用していくべきだが、お客にとって利用しにくいものも多く、まだまだこれからだと思っている。
SDGsの指標を取り入れるべき。
今後同様の事態が発生した際に、国や県の支援を待ってというのではなく、今回の経験を生かして新しい観光のモデルをつくるべき。
密を回避したりリモートワークや副業・兼業の拠点など、首都圏から地方へ流動する可能性があり、地域の一つのチャンスになり得る。そのために、きっかけをつくり、関係人口の構築が必要。
新しい生活様式でお客様をもてなすための施設の改修に対して支援する制度を設けてはどうか。
これからは他人との接点の少ない、限られた範囲での旅行が多くなることが予想されるが、栗原市は密集が少なく適地なのではないか。
新しい生活様式に対応した支援メニューの拡充をお願いしたい。
団体客や宴会客を取り込むのが難しくなっているので、対策を考えなければならない。
新型コロナウイルスの早期の収束を図り、アフターコロナの準備をして行かなければならない。
気仙沼・南三陸は、トレイルのルートも充実しているので、密を回避したアウトドアの個人のお客様向けの観光資源をもって、7月以降の対策につなげるのはどうか。
圏域にはアウトドアなど前向きなコンテンツもあると思うので、これらを生かして回復に向けて進むべき。
MaaSと関連付けて密にならない、混雑しないという安全・安心情報の共有化・ネットワーク化。
マイカーで来る個人のお客様が多いが、将来的にはバスの普及は不可欠。
スポーツレジャーはここ10年で最も伸びており、資源投下しマーケット化して行きたい。また、観光振興の為に消費者動向の分析やマーケットへの誘導が必要。
テレワークと家族単位の旅行需要をキーワードに、テレワーク及びワーケーションの観光地づくりを進めていくのはどうか。
健康を売りにしたワーケーションを推進したいが、鳴子温泉は、硫黄ガスにより電子製品等の劣化が早いので機器の更新費用がかかるので支援してもらいたい。

課題・論点
新しい観光の視点を取り入れるべき
新しい観光のモデルをつくるべき
ビジネスモデルの転換が迫られている
新しい生活様式に対応した取組が必要
三密を避ける新たな観光資源の磨き上げ
MaaSの活用により利用者の利便性の向上が必要
テレワーク・ワーケーションの観光地づくりを進めてはどうか
5G等の情報通信環境が必要
情報の共有化・ネットワーク化が必要
将来的な二次交通の対応が必要
スポーツレジャーの消費者動向の分析やマーケットの誘導が必要
農業を活かした登米独自の観光コンテンツの造成
マイクロツーリズムで交流人口拡大の取組が必要
元に戻すのか、新しい視点を取り入れるのか課題
レスポンス（顧客責任）の新たな視点が必要
地域の強みを活かした地域マーケティングが必要

取組の視点
新しい価値観・新しい観光創出
【各圏域のアイデア例】
（全体） ○新しい生活様式に対応した施設改修への支援 ○これまでのビジネスモデルの転換の取組
（全体、仙南、大崎） ○テレワーク・ワーケーションの環境づくり
（全体、仙台） ○5G環境整備への支援・補助
（仙南） ○MaaSの利便性を高め、密にならないルートや安全安心情報の共有
（大崎） ○スポーツレジャーの消費動向の分析やマーケットへの誘導
（栗原） ○他人との接点の少ない密集をさけたコンテンツ開発
（登米） ○農業大国登米の農業体験・宿泊を活用したコンテンツ ○登米市の強みを活かした地域マーケティング
（石巻） ○野蒜・宮戸八景等のオルレを中心とした三密を回避したコンテンツの造成 ○学校などでの休暇分散化の推進 ○松島などから石巻地域へと観光行動を促す情報発信
（気仙沼・本吉） ○コロナの経験を活かした新しい観光モデルの構築 ○新しい生活様式に対応した支援メニューの拡充 ○充実したトレイルルートを活かしたアウトドアの取組 ○家族単位・小規模グループでのマイクロツアーの取組

